

WEEKLY

一宮

題字 PG 安野譲次

Rotary
Ichinomiya



The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日

●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 491-0858



世界に希望を生み出そう

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:rc138@lily.ocn.ne.jp



重文 「陵王」面 真清田神社蔵

2024年3月28日
第3585回例会

会長 足立 誠 会長エレクト 佐々木久直
幹事 富田 隆裕 副幹事 鶴飼 雅弘
副会長 山上 哲司 会報委員長 野村 和弘

プログラム

卓話

田村 明氏

修文大学健康栄養学部管理栄養学科

学部長 教授

テーマ「野菜で元気に」

ロータリーソング 「四つのテスト」

第3584回例会の記録
2024年3月14日(木)

会長挨拶

足立 誠

前回偉大な宗教家の特性として「歴史的」かつ「伝説的」である存在の面のお話を始めました。

イエス＝キリストという方もそうですし、これから連続してお話をさせていただきますおシャカ様(「仏陀」・「釈迦」)についてもそうです。

この一例としておシャカ様のお誕生にまつわる「仏伝」(仏陀の伝説)として、おシャカ様がお生まれになって最初に発せられたお言葉が「天上天下唯我独尊」とされています。「天にも地にも我れ独り尊し」。なるほど生まれたばかりの赤ちゃん(「歴上のブッダ」)が言葉を発する(「伝説上のブッダ」)とは、荒唐無稽と思われるかもしれませんが、このことは仏教に心を寄せる方に、仏教(おシャカ様のお教え)の真髄として先ず最初に聞いて頂きたい言葉であるとする訳です。

そしてこの言葉は自身(「唯我」)が尊い(「独尊」)ならば、他者も一人一人尊いということに繋がり、7C.初頭に『十七条憲法』を發布した聖徳太子の「和の精神」にも繋がるものです。さらには相手の心に「仏性」を認め、お互いに念じ合う「仏々相念」、あるいは「一切衆生悉有仏性」という将来の仏教教理に発展する根源であるわけです。

次回の予定

イニシエーションスピーチ

中島 崇介君

山口 雄史君

委員会報告

ニコボックス

墨 大輔

☆ 吉田真人君

本日は修文学院インターアクトクラブの生徒たちをお招きいただき有難うございます。

緊張の中での発表をするものと思いますので暖かい笑顔でお迎えして頂きます様お願い致します。

☆ 渡邊 肇君

本日、地区補助金事業の「子ども支援事業」の運営サポート事業の報告を修文学院インターアクトクラブ・大成中学高等学校インターアクトクラブ生徒さんを迎えて行います。

☆ 近藤尚文君

マイロータリー登録率63%になり、ガバナーの意向である60%以上を達成することができました。声掛けご協力いただいた委員会メンバー、登録いただいた会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

☆ 足立 誠君 富田隆裕君

本日は地区補助金申請事業報告会として修文学院インターアクトクラブから顧問の青山美香子先生と2名の生徒様、大成中学高等学校インターアクトクラブから顧問の伊藤正一先生と4名の生徒様のお越し頂いた喜びで。

出席報告

現在の会員数	110名
本日の出席数	68名
インターアクト	6名
前々回の出席率	100%



次年度地区委員会委嘱状贈呈 浅井孝介君 都築 健君

***** プログラム *****

地区補助金申請事業報告会

社会奉仕委員長

渡邊 肇



本年度の地区補助金申請事業として「こども支援事業」の運営サポート事業を2023年9月1日から2024年2月29日までの期間で開催いたしました。

事業内容は期間中に倉庫を借り一宮ロータリーメンバーからフードパントリーに使用できる食品の提供できる企業・団体を紹介してもらい、14社のご協力により約7000個の食品を集め、期間内に行われた一宮市内のフードパントリーにおいて子供たちに配付を行った。また、11月18日(土)に一宮ロータリークラブが主催の「こども食堂」において修文学院高等学校及び大成中学高等学校のインターアクトクラブと共同のもと行政・企業・市民が一緒になって子供の居場所づくりとしての「こども食堂」運営を行いました。

フードパントリー事業では行政・支援団体などから支援物資の提供が定期的にあるが、それらの物資を一度に受け入れる場所がないため申請が出来ない現状である。

今回の事業で倉庫を用意することで支援物資が集まることで、これまで以上の支援活動が可能となった。

この点が大きな問題であり、これらのサポートが必要と思われる。

「こども食堂」事業ではコロナ禍ではこどもの居場所づくりを行うことが出来なかったが、今年はこどもを中心の居場所の提供を目的に開催し、「こどもが一人の時に災害にあった」をテーマに防災の知識をもってもらうために「防災」をテーマにイベントも開催いたしました。当日は子供および引率の大人を含めて200名、協力していただいた行政・企業、インターアクトクラブ、ボランティア総勢305名の参加者で開催いたしました。

多くの皆様のご協力のもと地域・企業・行政が一体となってこどもたちの居場所づくりができました、ご協力いただきました皆様ありがとうございました。

修文学院インターアクトクラブ

佐藤すばる・黒川果鈴

修文学院高等学校インターアクトクラブは「こども食堂」を通して、「防災についての知

識を多くの人に持ってもらいたい」という大きな目標を掲げ、①オリジナルで作った災害(台風、大雨、地震、火事)に関するカードゲーム、②新聞紙で作るスリッパ作り、③ペットボトルを使ったランタン作りという3つの企画を考えました。

テーマを「防災」に決めてからは、有益な情報を収集しつつ、どのように運営していくかを重点的に話し合いました。日常にあるものを使って、「災害時に役立つこと」について知ってもらうには、どうしたらいいかということ意識し準備をしました。事前に準備をしたお陰で、子どもたちへの説明も想定した通り進めることができました。関わりの中で印象に残っているのは、参加して下さった人達の笑顔です。非常食となるハイゼックスご飯を食べたり、カードゲームをしたりするなかで、「面白かった」と笑顔で言ってもらえたことは、今後につながる大きな励みとなりました。

以前から部員の中には、子どもたちと関わる活動がしたいという思いがありましたが、数年間コロナ禍であったこともあり、子どもたちと直接関わる機会がほぼありませんでした。しかし、今回「こども食堂」に参加し、今までできなかった願いを叶えることができました。このような貴重な機会を与えて下さった一宮ロータリークラブの皆様、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。今後もしよろしく願いいたします。

